

中学校 2年生 保健体育科学習指導案

令和 年 12月 6日

中学校 2年 30 名

1 単元名 大単元「 傷害の防止 」 小単元（ 交通事故の現状と原因 ）

2 単元について

小学校では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血などの簡単な手当などを学習している。

ここでは、傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することができることを理解できるようにすることが必要である。また、包帯法や AED(自動体外式除細動器)の使用を含む心肺蘇生法などの応急手当ができるようにすることが必要である。さらに、危険を予測し、その回避の方法を考え、それらを表現することができるようにすることが必要である。

このため、本内容は、交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びその相互の関わりによって発生すること、交通事故などの傷害の多くはこれらの要因に対する適切な対策を行うことによって防止できること、また、自然災害による傷害の多くは災害に備えておくこと、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動すること、災害情報を把握することで防止できること、及び迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止することができることなどの知識 及び応急手当の技能と、傷害の防止に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

3 単元の目標

知識・技能	障害の防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	障害の防止について課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようにする。
学びに向かう力・人間性	障害の防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。

4 生徒の実態と指導観

生徒は学級(学校)において、明るく活発な生徒が多く、授業中も集中していて、意見もよく出てくる。班での話し合い活動も他教科で経験しているため、積極的に話し合いを行うことが定着している。しかし、話が盛り上がりすぎてしまうことや授業中に睡眠をとってしまう生徒もいる。前回の単元「健康な生活と病気の予防②」では自分の生活と照らし合わせ、実生活に生かそうという姿勢が見られた。

また、本単元を通して、様々な場面における障害の発生要因を理解させ、具体的な状況を想起できる写真やイラストなどを活用したり、ペアワーク・グループワークを行ったりして、それらに対してどう

すれば障害を防ぐことができるのか危険予測や具体的防止策について考えさせる。本単元で学習した内容を実生活に生かすために、自分の考えをまとめたり、話し合い活動をして発表したりする。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や自然災害などによる障害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。 ・交通事故などによる障害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。 ・自然災害による障害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による障害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解している。 ・応急手当を適切に行うことによって、障害の悪化を防止することができることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	障害の被害と防止			
2	交通事故の現状と原因 ①中学生の交通事故の特徴は何だろうか。 ②交通事故はどんなことが原因で起こるだろうか。	○		
3	交通事故の防止			
4	犯罪被害の防止			
5	自然被害に備えて			
6	応急手当の意義と基本			

7 本時の展開

① 本時の目標

- ・中学生の交通事故の特徴と交通事故の原因について理解しよう。
- ・交通事故の発生要因を具体的な事例を通して理解しよう。

②展開

段階	学習活動【 学習内容 】	指導上の留意点 ◇評価
導入 8分	・挨拶	○大きな声で挨拶をさせる。 ○初めにワークシートを配布する。
	1. 【前時の復習】 ・前時の「傷害の原因と予防」について振り返る。	○教科書 P108（課題をつかむ C グループ）を使用して、10～14 歳の事故死の原因は交通事故が多いことを振り返らせる。
	2. 【東京都の交通事故について知る】	
	<div>発問 1：発問 1：日本で一番交通事故の多い都道府県はどこだと思いますか。また、それはなぜだと思いますか。</div> <div> <p>・個人で考える。</p> <p>予想される生徒の反応：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都 人口が多いから。 車が沢山走っているから。 ・大阪府 人口が多いから。 車が多そうだから。 ・愛知県 交通量が多そうだから。 ・北海道 面積が広いから。 ・京都府 観光客が多いから。 </div> <div>発問 2：東京都の交通事故の中ではどのような状況での交通事故が多いと思いますか。</div>	<p>○交通事故というワードを出すことで交通事故について考えるきっかけを作る。</p> <p>○本時では交通事故について学んでいくことを伝える。</p> <p>○人口や交通量などに注目するように伝える。</p> <p>○生徒を指名し、発言させる。</p> <p>○交通事故が一番多いところは、東京都であること、また、二番目に多いのは大阪府、三番目に多いのは愛知県、一番少ないのは鳥取県であることを伝える。掲示物①←警視庁調べ</p> <p>○人口が多い都道府県では交通事故が多く発生していることを伝える。</p>
	・個人で考える。	

	<p>予想される生徒の反応：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車の運転中。 ・バイクに乗っているとき。 ・自転車に乗っているとき。 ・歩いているとき 	<p>○生徒を指名し、発言させる。</p> <p>○交通事故が起きる状況として一番多いのは、乗用車運転中（32.5%）、次に自転車運転中（25.1%）、次に貨物車運転中（12.8%）、次に歩行中（8.7%）であることを伝える。 掲示物②←警視庁調べ</p> <p>○交通事故は身近なことであり他人事ではないということを伝える。</p>
展開 32 分	<p>3. 【中学生の交通事故の特徴について知る】</p> <p>発問3：あなたは自転車に乗っています。普段、「とまれ」の標識を見つけた時、どうしていますか。</p> <p>・個人で考える。</p> <p>予想される生徒の反応：一度止まっている、急いでいる時は止まらない、気にしたことがない。</p> <p>・中学生の交通事故は、自転車乗用に多く起こっていて、危険な乗り方が交通事故の原因につながることを知る。</p> <p>・自転車同士や歩行者と自転車の交通事故が多く発生していて、自分自身が被害者になるだけでなく、加害者になって誰かを負傷させてしまうこともあるということを知る。</p> <p>・小学生が加害者になった交通事故の事例を知る。</p> <p>平成20年9月、兵庫県で11歳だった男の子がマウンテンバイクで坂を下っていた際に、女性にぶつかり意識が戻らなくなってしまう、男の子が時速20～30キロで走行していたことやヘルメット未着用だったことなどから、裁判で母親</p>	<p>・一時停止の標識を見せる。資料①</p> <p>・一人で考えさせた後に指名し、数名に発表してもらう。</p> <p>○P110 資料①（中学生（13～15歳）の交通事故の特徴）を使用して、中学生はどのようなときに交通事故が起きやすいのか説明する。</p> <p>「交通事故負傷者の状態別割合(2019)」</p> <p>・①自転車乗用中②歩行中③オートバイ乗車中</p> <p>「自転車事故の原因(2019)」</p> <p>・①一時不停止②安全不停止③前方不注意④交差点進行義務違反⑤信号無視⑥ハンドル操作⑦動静不注視</p> <p>○導入部分の交通事故の事例も振り返りながら、自転車の危険性を伝える。</p> <p>○中学生が加害者となった場合でも、刑事上の責任（14歳以上は、懲役、禁固、罰金、科料など）と民事上の責任（損害賠償などの金銭上の責任）を問われることを伝える。また、被害者を見舞い、誠実に謝罪することも必要であると説明する。掲示物③</p> <p>○14歳未満の子どもが加害者になると、保護者に責任がかかり、多額の賠償金を払わなくてははいけ</p>

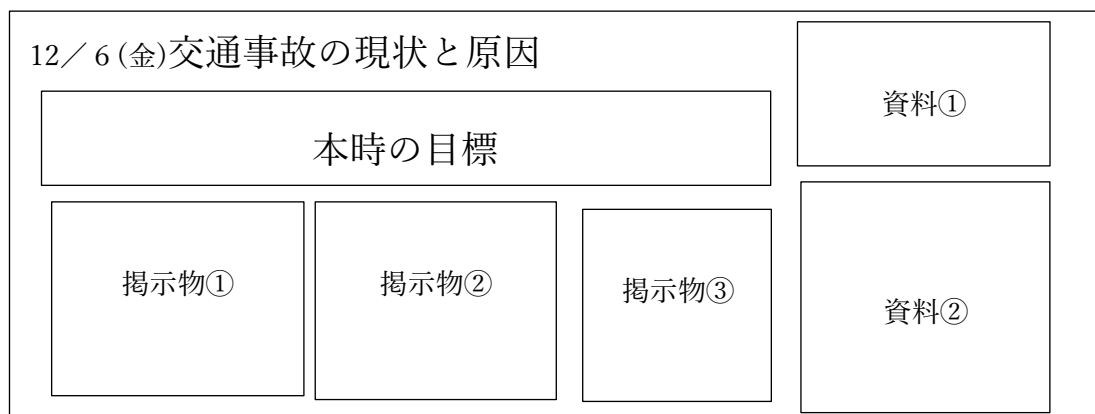
<p>に 9500 万円の賠償を命じた事例を知る。</p> <p>4, 【自転車の危険な乗り方と罰則について知る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信号無視、一時不停止、悪ふざけ・並走、ながら運転、歩行者の妨害などは交通事故につながる危険な自転車の乗り方であることを理解する。 ・令和 6 年 11 月 1 日より道路交通法が改正され、ながらスマホと酒気帯び運転に新たな罰則が整備されたことを知る。 <p>5, 【交通事故の原因について知る】</p>	<p>ないことがあることを伝える。</p> <p>○お金の問題だけでなく、加害者になってしまったら、被害者の命やその後の人生までも奪ってしまうという怖さを伝える。</p> <p>○P110 資料②（交通事故につながる危険な自転車の乗り方の例）を使用して、このような乗り方は交通事故につながりやすく、普段からこのような乗り方をしていないか確認する。</p> <p>○自転車運転中の携帯電話使用等に起因する交通事故が増加傾向であること及び自転車を酒気帯び状態で運転した際の交通事故が死亡・重傷事故となる場合が高いことから、交通事故を抑止するため新しく罰則規定が整備されたことを伝える。資料②</p> <p>○P130 探究 1（自転車による危険な違反行為）を開くように指示を行い、危険な違反行為 15 項目のうち 3 年以内に 2 回以上摘発された場合、自転車運転講習が義務づけられ、従わない場合は 5 万円以下の通り罰金になることを伝える。</p>
<p>発問 4：交通事故が起こる原因と聞いて何があると思いますか。</p>	
<p>・ 3, 4 人のグループで 3 分間話し合い活動を行い、交通事故の原因になることを各グループ 3 つずつ発表する。</p> <div data-bbox="264 1570 740 1776"> <p>予想される生徒の反応：ながら運転、飲酒運転、ブレーキが効かなかった、信号無視、夜で暗かった、道が狭かった</p> </div> <p>・交通事故は「人的要因」「環境要因」「車両要因」に分けて板書する。</p>	<p>○多くの意見が出るように促し、人の意見は否定しないように伝える。</p> <p>○一人一人が話し合い活動に参加しているか、話し合い活動が活発に行われているかなどを見ながら机間指導をする。活発に活動が進んでいない場合には、導入の交通事故の事例や身の回りで起きた交通事故などの具体例を挙げる。</p> <p>○生徒が発表した内容を KJ 法で板書していく。生徒が発言したことを、「人的要因」「環境要因」「車両要因」に分けて板書する。</p> <p>○交通事故の原因は「人的要因」「環境要因」「車両要因」に分けて板書する。</p>

<p>両要因」の3つが原因になって、複雑に関わり合って発生することを知る。</p> <p>・ 掲示物③を見て、ワークシートに記入する。</p> <p>6, 【自動車や自転車の停止距離について知る】</p> <p>・ 走っている自動車や自転車などの乗り物が完全に停止するためには、空走距離と制動距離を足した距離が必要であることを理解する。</p> <p>「空走距離」→ブレーキが効き始めるまでに車が走る距離。</p> <p>「制動距離」→ブレーキが効き始めてから車が止まるまでの距離。</p> <p>ブレーキを踏んでもすぐには止まらないことを理解する。</p>	<p>要因」に分かれることを説明する。</p> <p>「人的要因」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険な行動（飛び出し、信号無視など） ・ 不安定な心身の状態（焦っている、心配事がある、睡眠不足など） ・ 規則を守る態度の欠如（「これくらいいいだろう」など） ・ 危険を予測する能力の不足 <p>「環境要因」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の状況がよくない場所（交差点、狭い道路など） ・ 安全施設の不備（歩道やガードレールがないなど） ・ 自然の悪条件（雨、雪、夕暮れ、夜など） <p>「車両要因」・ 車両の欠陥や整備不良（ブレーキが効かないなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車両の特性（内輪差、死角、停止距離など） <p>○ 掲示物③の事例をもう一度見せて、ワークシートに人的要因、環境要因、車両要因を書き出させる。また、掲示物③の交通事故はどうしていたら防ぐことができたのかということもワークシートに書かせる。</p> <p>○ テレビの CM で見られる自動ブレーキ（衝撃被害軽減ブレーキ）は、徐行のためすぐに停止できることを伝える。</p> <p>○ P111 資料⑥（自動車と自転車の停止距離）を使用して、時速 60 キロで走っている自動車が停止するには、約 35m の距離が必要であることを説明する。資料⑥は乾いた平坦な舗装道路の場合であり、雨や雪など環境要因が重なった場合はもっと距離が伸びることを伝える。資料③、資料④</p> <p>○ 「空走距離」と「制動距離」の説明を行い、停止するには距離が必要であることを伝えたいので、視界が悪い場所や交差点などの危険な場所ではあらかじめスピードを落としておくことで交通事故</p>
---	--

<p>7, 【自動車の特性について知る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の内輪差について知る。自動車の後輪は、前輪よりも内側を通ることを理解する。 <p>「内輪差」→車が曲がるとき、前輪と後輪でタイヤの通る後に違いが出てくる。この違いのうち、内側の前輪と後輪のタイヤの通る跡の差のこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道の目の前で停止していると内輪差に巻き込まれてしまうことを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の死角について理解する。 <p>「死角」→車の運転席から目視では見えない部分のこと。</p> <p>ex)・車のボディーやボンネット等、車の構造上によるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の車や道路上の建物等、ほかの障害物によるもの ・ドライバーが目の位置を変えずに見渡せない範囲によるもの <p>8, 【自転車の特性について知る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車は安定性が悪いことや運転手の体を守るものがないため、事故が起きると大きなダメージを受けやすいことを知る。 	<p>の可能性が軽減することを説明する。</p> <p>○P111 資料④（自動車の特性）を使用して、内輪差の説明をする。掲示物④</p> <p>○トラックなど大きい車ほど内輪差は大きくなるため、交差点や曲がり角で車のそばに自転車や歩行者がいると前輪は大丈夫でも後輪に巻き込まれて事故に合う危険があるので注意する必要があることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物④を使用し、歩行者、自転車がどの位置に立っていたら内輪差に巻き込まれてしまうかグループで考えさせ、代表者1人に発表させる。 <p>○目の位置を変えずにどこの範囲まで見えるか問いかけ、手で表現させる。</p> <p>○P111 資料④（自動車の特性）を使用して、自動車には前後左右に運転手から見えない死角という部分があることを説明する。</p> <p>○自動車が停止している時などにこの死角という部分に隠れたり、入ったりすると運転手から見えないため非常に危険であることを伝える。</p> <p>○どうしてヘルメット着用をするのか問いかけ、周囲の人と考えさせる。</p> <p>○自転車に乗っている時の交通事故で亡くなった方の5割がヘルメットを着用していなかったため頭部に致命傷を負っていることを伝える。</p> <p>○普段、生徒が乗る機会が多い自転車には速度が低いときに特にバランスを崩しやすいという特性やダメージを受けやすいという特性を持っているため、自分の命を守るためにもヘルメットを着用することの大切さを伝える。</p> <p>○令和5年4月1日からヘルメット着用義務になったことを伝える。</p>
--	---

		<p>◇交通事故などによる障害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。(知)</p> <p>〈A 評価とするポイント〉</p> <p>本時の学習を踏まえて、授業で学んだポイントを整理したり、友達と交換した意見をまとめたりして、交通事故の加害者にも被害者にもならないための工夫をワークシートに書き出している。</p> <p>〈C 評価とするポイント〉</p> <p>本時の学習を踏まえて、交通事故や自動車・自転車の特性を理解していないため、ワークシートに今後の生活に生かす工夫を書き出せていない。</p> <p>〈努力を要する生徒への手立て〉</p> <p>・自分自身の日頃の生活を振り返ってもらい、今後交通事故にあたり、起こしたりしないためにはどう改善していくのか、またどうすべきなのかを考えてもらうように個別に指導を行う。</p>
ま と め 10 分	9, 交通事故の原因について授業を通して学んだことを学習シートに記入し、今後の生活でどのようなことに注意すべきなのか発表する。	<p>○授業を通して考えたこと・今後の生活に生かしていきたいことを学習シートに書かせ、発表させて再度意思決定させる。</p> <p>○全員が学習シートに記入できているか机間指導を行う。</p> <p>○ワークシートを回収する。</p> <p>○本時の授業をまとめる。</p>

8 板書計画



「人的要因」	「環境要因」	「車両要因」	資料③	揭示物④
			資料④	

9 資料

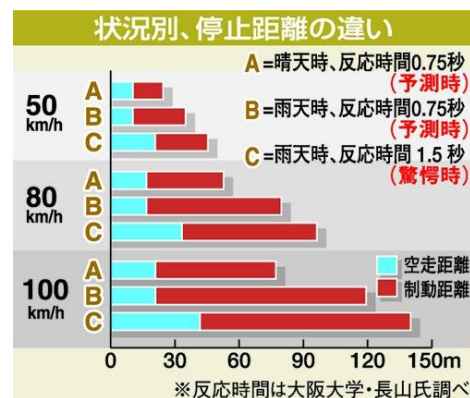
資料①



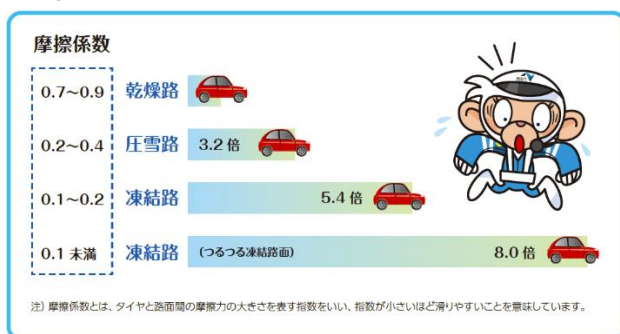
資料②



資料③



資料④



- ・教科書 P108 課題をつかむ
- ・教科書 P110、111 資料①、②、④、⑥
- ・掲示物①(都道府県の事故の件数 TOP3をグラフにする)
- ・掲示物②(東京都の交通事故の原因をグラフにする)
- ・掲示物③(交通事故の事例の説明)
- ・掲示物④(画用紙でトラックと道を作成して内輪差の説明を行う)

4 章 傷害の防止 P110～

2. 交通事故の現状と原因

番号

氏名

Q.交通事故が起こる原因として何が挙げられるでしょう？

〈個人の意見〉

〈みんなの意見〉

○平成 20 年 9 月、兵庫県で 11 歳だった男の子がマウンテンバイクで坂を下っていた際に、女性にぶつかり意識が戻らなくなってしまい、男の子が時速 20～30 キロで走行していたことやヘルメット未着用だったことなどから、裁判で母親に 9500 万円の賠償を命じた。

人的要因

環境要因

車両要因

どうしたらこの事例を防げていたか。

授業を通して今後の生活に活かしていきたいことを書きましょう

授業の感想